

白鷹町郷土資料館整備構想の周知を

町長 周知はタイミングをはかりながら検討



録画を配信

白鷹町郷土資料館整備構想の策定経過

問 構想の策定経過と、旧中山小学校体育館の活用を検討状況は。

町長 昭和55年に町立資料館計画案が策定されて以来、郷土資料館の整備は長年の課題だった。平成29年から、旧中山小学校体育館に保管された民具等の調査・整理・活用について、また、旧十王地区コミュニティセンターも保管施設の候補のひとつとして、整備構想案の検討を開始した。



関千鶴子議員

体育館の具体的な活用は、中山地区の要望を伺いながら検討する。

文化財保護審議会での意見は

問 文化財保護審議会での、場所・面積・運営・活用等に対する意見は。

教育次長 主な意見として、「場所としては狭いのは」「展示スペースが確保できるのか」「駐車場はどうか」など。運営については、「施設の目玉は何か」「観光に繋がらないか」「資料館で見てもらうだけでなく出張展示やワー

クショップなども」「運営には資格を持った専門職員の配置を」「直営ですべきではないか」など。他に温湿度管理、紫外線の管理をしてほしいなどの意見があった。

問 ランニングコストへの考え方は。

教育次長 資料館単体だけでなく、他施設と連携し相乗効果を狙うのが大事。運営方法は今後、組織を立ち上げ検討する。

ランニングコストは、旧十王コミュニティセンターに700万から800万円ぐらい。加えて、資料保管庫の管理経費がある。

問 収益が上がる施設ではないと思う。維持経費は一般財源からとなった場合の財源に関しての考え方は。

町長 収蔵する場所が無いなかで、経費、投資を少なくし、将来にわたりメンテナンスも考えながら取り組んでいく。

周知をどうする

問 財政的な面や町民の方のご協力・ボランティアなどを想定すると、周知が大事と思うが。

町長 ある程度の理解はされていると認識している。地方創生拠点整備交付金が

採択されれば、直ちに事業に着手していきたい。

問 構想を周知する時期ではないということか。今回の構想案を、町民の方へ周知してはどうか。

町長 補正予算が確定してない時期では、周知できる状況ではないが、タイミングをはかりながら考える。



歴史を刻む民具、いよいよ表舞台へ